

計測: あるもののサイズ、量、程度を確認します



棒グラフは、水平または垂直のバーを使用してカテゴリ間の比較を示します。カテゴリ間の幅広い差異を一目で見分けるために役立ちます。



ツリーマップは、データの全体に対する割合についての階層と構成の両方を示します。カテゴリ別の割合はサイズによって簡単に比較できます。



バブルチャートは、エリアによって変数の数値を表します。2つの変数(カテゴリと数値)によって、円が近接しあって配置されます。



ヒートチャートは、マトリクス内での頻度を示します。四角形のグリッドの各セルの値は、クラスとして表現されます。

関係: 複数の物事の関係または類似性、または何らかのものと関連付いている状態を示します



コロプレスマップでは、マップ上に定量的な値をエリアで表現します。一様ではないエリアや母集団での集計値を示すのではなく、正規化された値で表示するほうがよいでしょう。



コードダイアグラムは、カテゴリ間の相互関係を視覚化し、データセット内または異なるデータグループ間の類似性の比較を可能にします。



散布図では、どちらのスケールも定量的変数を示し、2つの変数間の関係性を確認できます。相関関係の度合いも定量的に表現することができます。



スパイダーダイアグラムは、起点と目的地との間のパスを示します。このパスは場所間のつながりを示します。

変化: 時間の経過に伴って、物事が変化するプロセスを示します



棒グラフは、水平または垂直のバーを使用してカテゴリ間の比較を示します。カテゴリ間の幅広い差異を一目で見分けるために役立ちます。



ヒートチャートは、マトリクス内での頻度を示します。時間の値を軸に使用すれば、四角形グリッドの各セルの値は時間の経過に関するクラスとして表現されます。



3つの数値変数を使用するバブルチャートは多変量解析チャートで、2つの値の関係を示す一方で、3番目の値が円形エリアによって示されます。



等級シンボルマップは、マップ上でのシンボルのサイズを変化させて、フィーチャ間の定量的な差異を示すために使用されます。データは、値の範囲毎に割り当てられたシンボルによって分類されます。



密度/ヒートマップは、イベントや値の空間的集中を計算し、連続するサーフェスとして分布を視覚化できるようにします。



データクロックは、時間データの円形チャートを作成します。一般的には、さまざまな期間のイベント数を表示するために使用されます。



折れ線グラフは、連続する数値を視覚化するもので、主に時間の経過に伴う傾向を示すために使用されます。全体的な傾向と、値から値への変化を示します。



コンボチャートは、X軸上で共通の情報を割り当てて2つのグラフを結合します。2つのデータセット間の関係を示すことができます。

相互作用: 部分間での情報、製品または商品の流れを示します



コードダイアグラムは、カテゴリ間の相互関係を視覚化し、データセット内または異なるデータグループ間の類似性の比較を可能にします。



スパイダーダイアグラムは、起点と目的地との間のパスを示します。このパスは場所間のつながりと流れを示します。

分散: 現象の数値的または空間的な配置を示します



ヒストグラムは、数値変数の分布を示します。バーがクラスのビンの範囲を表し、高さによってクラスのビン内のデータ個数を示します。



箱ひげ図は、中央値、上下の四分位、最小値と最大値、外れ値を示すデータ分布を表示します。多数のグループ間の分布を比較できます。



コロプレスマップでは、マップ上に定量的な値をエリアで表現します。一様ではないエリアや母集団での集計値を示すのではなく、正規化された値で表示するほうがよいでしょう。



等級シンボルマップは、マップ上でのシンボルのサイズを変化させて、フィーチャ間の定量的な差異を示すために使用されます。データは、値の範囲毎に割り当てられたシンボルによって分類されます。



密度/ヒートマップは、イベントや値の空間的集中を計算し、連続するサーフェスとして分布を視覚化できるようにします。



個別のシンボルマップ(エリアまたはポイント)では、場所ごとに記述的(定性的)な情報を表示できます。エリアにはさまざまな塗りつぶしが施され、ポイントはジオメトリックまたはピクトリカルにできます。

部分と全体: カテゴリの相対的な比率やパーセンテージで、部分と全体の関係を示します



ドーナツチャートは、カテゴリデータの比率を表示するために使用されます。各部分のサイズは、そのカテゴリの比率を表します。



ツリーマップは、データの全体に対する割合についての階層と構成の両方を示します。カテゴリ別の割合はサイズによって簡単に比較できます。

Linda Beale PhD, 2017

承認メッセージ

参考文献: Jon Schwabish and Severino Ribecca, The Graphic Continuum, 2014 and, Alan Smith et al. Visual Vocabulary, The Financial Times, 2016